



新たな歴史の初めに

会長 S11 連川 悠一

7月2日(土)東京グランドホテルに、内村院長、阿倍教頭、広報 小手川先生、池永事務局長、前院長・100周年記念募金委員長 土山先生、小崎同窓会参与、林 育英会会長ら 来賓のご出席を得て平成23年度・母校創立100周年の総会を開催しました。

総会は、近年 参加者の減少傾向にありましたが、今回、新卒者の参加も多く、総員100名を超えました。この記念すべき年にこの盛り上がりは誠に喜ばしく、秋には、東京九学会大挙して母校祝賀に駆け付けたいと思います。

開会后、内村院長から ご挨拶と学院近況の紹介を頂きました。新任の教頭 阿倍先生(S28・教科:英語)からは「九学は今、登り調子であり、ここ数年で劇的な変貌を遂げている」という嬉しいお話がありました。総会議題は 平成22年度事業・活動報告、会計監査報告、23年度事業計画案、百周年記念行事について 等が審議され、何れも原案通り承認可決されました。



贈呈モニュメントのテーマは「復活」

席上、幹事会で贈呈を決めていた創立100周年記念モニュメント「復活」(S28 高濱英俊氏制作、本校校庭 新体育館近くに設置させて頂く予定)のレプリカの紹介を行いました。

懇親会に移る前の休憩時間に、百周年記念ビデオの放映があり、九州学院建学の歴史、先生・先輩方の偉業、懐かしい校舎・校庭の風景に、感慨もしきりでした。本紙で、小手川先生がご紹介下さっている通り、12月24日(土)にはTKUテレビ熊本から、記念番組(第2弾)が放送されるとのこと。東京で見ることが出来なくて残念です。どうか、在熊の

親戚・友人方にお知らせ下さい。

懇親会では、旧制の先輩方に登壇して頂き、現役学生女子から花束の贈呈がありました。学院と本会の長い歴史を示す感激の光景でした。



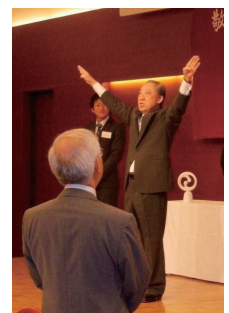
旧制先輩に花束

来賓方のスピーチ、新卒・現役学生諸君の紹介があり、若々しくも華やかなステージに S一桁の諸兄からは、「九学も変わったなー」という声も...



新卒・現役学生 紹介

院長とのジャンケンによる福引・・・と楽しい時間が過ぎ、田上英武氏(S15)のリードによる校歌斉唱 フレー・フレー九学。至福の時。学院 新たな歴史の始まりです。来年はより多くの会員と、揃って校歌が歌えますように。



義を見て勇み正を踏み やまず理想に進まん

(写真・注:編集部)

偉大なる先輩 竹宮帝次氏

～ミズーリー号のたった一人の通訳官～

百周年記念 TV 番組・TKU テレビ熊本にて
- 構想 2 年余り 12 月 24 日に放送決定 -

＜九州学院同窓会広報委員長 小手川 勲 (S24)＞

2011 年、九州学院は創立百周年を迎え、秋から冬にかけて様々なイベントが計画されています。百周年の事業の一環としてテレビの記念番組制作を行い「百周年の想いを越えて(第二弾)」と題し、12月24日(土)にTKUテレビ熊本で放送する予定です。

日本側のたった一人の通訳として米国第三艦隊旗艦、ミズーリー号に乗り込み、降伏文書調印式の事前交渉をした竹宮帝次先輩のエピソードを軸に、九州学院百年を振り返り、現在の学校の様子を紹介する番組です。二年前の夏に構想を練り始めて以来、まるで神のお導きであるかのような不思議な出会いと出来事の中、同窓生の皆様の心温まるご協力を頂きながら、着々と準備をすすめて来られたことに感謝致します。

先輩の偉業については、九学の誇りとして多くの人が知るべきだと思っていたところ、「新潮 45」の2009年8月号に掲載された竹宮先輩のインタビュー記事に感銘を受け、そのことをテーマに創立百周年記念のテレビ番組を制作することを密かに決心しました。

とにかく早い機会に先輩にお会いして取材をしたいと思って伝を模索し始めたところ、東京九学会の高森氏(S32回)から、竹宮先輩の同級生 中園先輩を紹介され、竹宮先輩が居られる場所も判明しました、さらに愛校心あふれる映像関係会社の古財社長(S37回)の善意を受け、2ヵ月後の2009年10月3日に東京都羽村市内の老人施設で竹宮先輩との会見が実現したのです。当日は中園先輩、もう一人の同級生矢野先輩、小崎同窓会参与、古財氏、高森氏、宮崎カメラマンと私が同席しました。

竹宮先輩は体調の都合であまりお話出来ないかもという心配をよそに、ミズーリー号上での事前交渉の話や九州学院の思い出など、なんと一時間半にわたって熱心にお話下さいました。



「クラブ・タケミヤ」にて ちょっと気取って(筆者)

実をいうと番組制作の計画が学校に認められ、予算が付いたのは後になってのことで、いわば見切り発車の冒険だったことを白状しますが、すべてがとんとん拍子に運んだことが不思議でなりません。

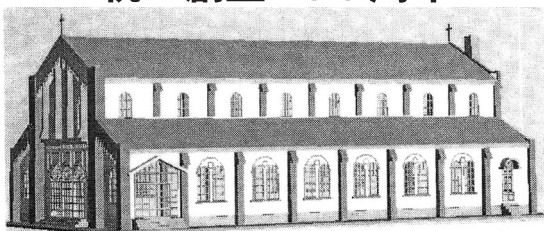
竹宮先輩の訃報が届いたのは、翌年の2009年4月30日でした。半年前のあの時のお話が私たちへの最後の貴重なメッセージとなった以上、先輩の遺志を後世に伝えるべき番組にしたいと、気持ちを新たにしました。

先輩の遺業を伝える上で、どうしても撮影したい場所がありました。それは米海軍横須賀基地池子支所にある、竹宮先輩を讃えてネーミングされたレストラン & バー「クラブ・タケミヤ」でした。何度かの交渉の末、免許証と住民表時参の条件付でやっと基地内での撮影許可が下り、2011年7月1日に高森氏の案内で私のほかに二人のカメラマンと池子に向かい、念願の撮影をすることが出来ました。

Congratulating Kyushu Gakuin Centennial

時代の風は 吹きたけりて

祝 創立100周年



旭光(有) 緒方 榮喜 (J6.S8)

東京九学会

会長 連川 悠一

(S11)

建物の入り口の正面に竹宮先輩の写真と業績の紹介文(英語)が飾られていたのがとても印象的でした。通訳の敏腕と高潔なお人柄が認められ、戦後は米海軍のブレインとして長年にわたって貢献されたことが高く評価され、退任式には400人以上が参列し、時の小泉純一郎外務大臣の挨拶もあったということです。「クラブ・タケミヤ」は現在も基地で働く多くの米海軍関係者のオアシスとなっています。

先日、驚くべきことがありました。九州学院野球部坂井監督のお姉さま 五反田さんと藤崎台球場でお会いした際に、竹宮先輩の実妹勝子様の嫁ぎ先は自分の近い親戚にあたり今でも親しくしている、と言われたことです。確率からすると考えられないほどの偶然ですが、今回の番組制作の一連の出来事はすべて「必然」なのかも知れないと、ノンクリスチャンの自分さえ「神の御業」を強く意識する瞬間でした。

神様と多くの学院関係者の善意に支えられてやがてクランクアップするこの番組に、どうかご期待下さい。最後になりましたが、竹宮帝次先輩のご冥福を心からお祈り申し上げる次第です。

*九州学院広報部長・英語科教諭

九学最後の戦没生徒の手紙

九州学院は、その100年の歴史の中で、1914年我が国の第一次世界大戦への参戦から第二次大戦終結までの約30年間、国際緊張と戦時下であり、苦難の時代を過ごしています。そして、卒業生の戦死者は105名を数えます。

最初の年代は旧制3回(山内達雄先輩)最後の年代は、同32回(野口典三先輩、吉田浩先輩)です。旧制32回は、終戦直後昭和21年の卒業ですから、野口、吉田両先輩は、学徒兵であられました。このうち野口先輩(浜松戦車学校空襲で戦死)が3年上級生として卒業される29回今村靖夫先輩宛書かれた手紙を、上記戦死者関連資料とともに、上村希文先輩(旧制31回、父君:上村一仁先生は同6回卒学院の英語教師であられ、昭和20年フィリピン戦線で戦死)に見せて頂いたので、ここに、当時の学院を偲び、謹んで掲載致します。

我等の先輩 今村大兄を送る

當に卒業されんとする今村大兄へ、後輩の私より一言。顧みますれば昭和十七年の四月櫻花亂満と咲きみだれてゐる時、入學致しましてより二年間の間いろいろお世話になりました。

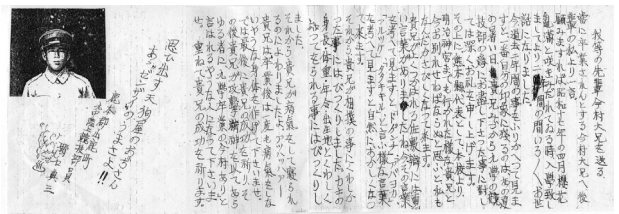
今、過去二年間の事をふりかへて見ますと、一番自分の印象に残るのは、あの夏の暑い日、貴兄みづから九學の競技部の為にお盡し下さった事に對しては深くお礼を申し上げます。その上に、熊本縣代表として本校に上がり、明治神宮までも行かれた様な貴兄と今、お別れせねばならぬと思ふと私もなんだかさびしくなつて來ます。貴兄がよくつかはれる佐敷辦には面白い言葉がありましたね。今、その言葉を考へて見ますと「ドゲンチ」、「アバヨカ」、「フルツケ」、「タタキル」、と言ふ様な言葉を考へて見ますと、自然におかしくなつて來ます。

それから、貴兄が相撲の事にくわしかつた事にはびっくりしました。力士の身長・体重・年令・出生地とくわしく知つてをられる事にはびっくりしました。

それから貴兄が病氣をして寝られるのによまりましたよ。あっハッハー 貴兄は、卒業後は一度も病氣をしないやうな身体を作りあげて下さいませ。では最後に貴兄の成功を祈り、その後貴兄が攻撃精神を以てあらゆる者に、九學卒業の「今村あり」と言われるやうな人になつて下さいませ。重ねて貴兄の成功を祈ります。

思ひ出す天狗屋のおぢさん あ、「ゼンザイ」のうまさよ!!

鹿本郡山鹿町九中陸上競技部員 野口典三



宛先の今村先輩は、卒業後、野口先輩の祈りの通り、実業界で成功を収められ、東京九学会にもご尽力賜つて平成19年に逝去されました。

(記:編集担当)

祝 九州学院創立100周年

思想の波は あいうてども

東京九学会

副幹事長 高森 重視

(S32)

創業明治7年

肥後象嵌

みつすけ

光助

大住 裕司 (S27)

〒860-0004 熊本市新町3-2-1 TEL 096-324-4488
URL <http://www.mitsusuke.com/>

彫刻家 高濱英俊氏



東京九学会総会にて

本年度総会第5号議案で報告された通り、東京九学会は、本校創立百周年を記念して、高濱英俊氏制作のモニュメント「復活」を贈ることとしています。

高濱氏は九州学院S28回生で、東京芸術大学大学院修士課程修了 石の彫刻家

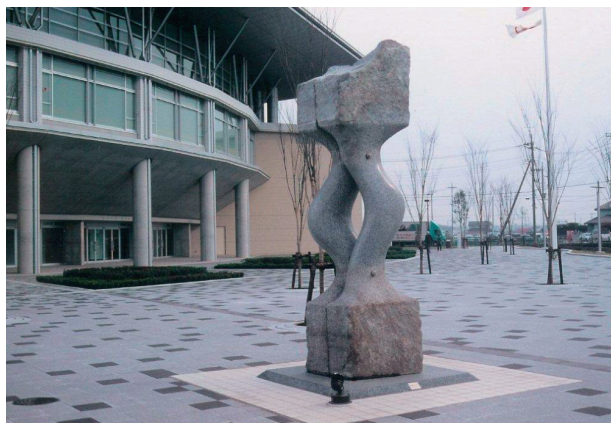
として、広く内外に知られ、ダイナミックな中に優しさのある多くの作品は、公共の場所、美術館、画廊で見ることが出来ます。九州学院本館ロビーにある「敬天愛人」像は氏の作です。以下 都内及び近郊で見ることが出来る作品の一部を紹介させていただきます。



風洞 大理石 H100 W60 D55 1991年
東京 タダノ 両国ビル



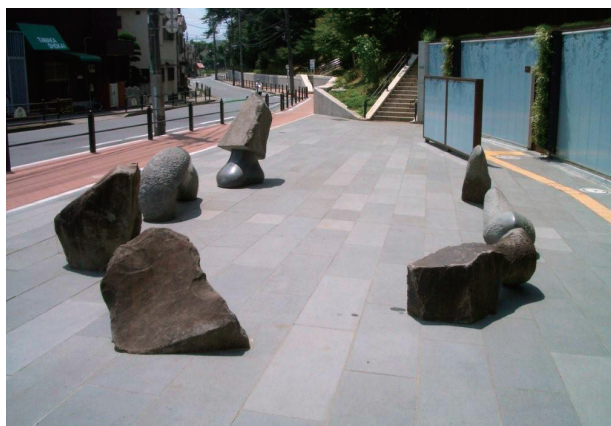
遠隔操作 御影石 H210 W250 D180 1985年
東京 台東区 リバーサイドスポーツセンター



断層-WAVE 白御影石 W390 W85 D85 2002
埼玉 春日部 ウイングハット



水の鼓動一絆 御影石 H210 W270 D120 2000年
東京 青山 帝国データバンク本社ビル



水の形 安山岩 H150 W750 D450 2011年
東京 練馬区 もみじ山公園

Congratulating Kyushu Gakuin Centennial すべての物を 超えてすすむ



学院のモニュメント その2

「敬天愛人」

高濱英俊氏 S28 作

マッカーサー先生の遺産より寄贈

九州学院同窓会 参与

小崎義昭 (S4)

祝 九州学院創立100周年

東京九学会

顧問 森田 茂 (S4)

〒332-0017 川口市栄町2-1-18-801
Tel: 048-250-6021 Fax: 048-256-2878

高濱氏のアトリエは 群馬県吉岡町にあって、「復活」は、今、ここで制作され、母校 九州学院の校庭に運ばれようとしています。



高濱英俊氏 アトリエ風景

以下 氏の モニュメント復活への想いです。

『九州学院 100 周年を記念するモニュメントを東京九学会から贈ることが決まり、私が制作を担当させて頂きましたことを大変光栄に思います。

作品の発案にあたり、いくつかのテーマが浮かびましたが、やはり今年世界を震撼させた大震災をとりあげない訳にはいきませんでした。

それは自然の脅威や人間の無力さを思い知らされた悲しい出来事でしたが、また同時に人間の持つ潜在力や生命力を垣間見ることでもできました。

作品制作にあたってはキリストの復活する姿を思い浮かべながら、厳しき状況下でこそ大きな力を発揮する九州学院のイメージを形にすることで九州学院 100 周年の確かな足跡を刻むことができたらと思っています。』

本通信次号で、九州学院校庭に設置された「復活」をお見せできると思います。 (記:編集担当)

スポーツ観戦

S56 卒 小崎 奈美子

私はスポーツ観戦・応援がとても好きです。特にこの趣味は九学へ入学して、スタートしました。皆さんご存知の通り九学は部活動が盛んで、様々な部が全国で活躍しています。

九学に入学して、私はチアダンス同好会に入部しました。(当時は部ではなく、同好会)チアやダンスは全くの初心者でしたが、当時女子が入るクラブはチアダンス同好会か部活のマネージャーが主でした。チアダンス同好会の当時活動は野球応援と体育祭でダンスを披露することがメインで後は野球以外の応援に駆けつけることでした。

元々野球には興味がありましたが、他のスポーツは実際観たことがなかったので最初はルールもわからないし・・・という気持ちで応援していた時もありましたが、段々と自分が他のスポーツにもめり込んでいくことがわかりました。私はチアとして応援に行かなくても、プライベートでも部活動の応援に行くようになる位、スポーツ観戦の虜になってしまいました。

九学を卒業後は東京の短大に進学しましたが、女子だけの学校でスポーツは盛んではありませんでしたが、東京という土地柄を活用し、様々なスポーツ観戦をしました。

短大を卒業し、社会人になった今でもスポーツ観戦好き、チアも経験していたこともきっかけに現在 JBL バスケットボール・アルバルクというチームのチアリーダーとしてシーズン中はホームタウンの応援へ駆けつけています。ハーフタイム・クォータータイム・タイムアウトの機会パフォーマンスし会場を盛り立てる事がアルバルクチアリーダーの役目です。また、お客さんに盛り上げてもらえる(orお客さんが盛り上がる)にはどうすればいいかと考えながら活動しています。与えられた時間の中のダンスパフォーマンスは勿論のこと、パフォーマンス以外でも、チームとお客さんの架け橋となれる存在になれるよう心がけています。オフシーズン時は母校の野球の応援や社会人ラグビー、サッカーなど様々なスポーツを応援しています。スポーツ観戦では、会場が一体になったり、「わあっ」と沸いたり、時には悔しい思いをしたり・・・仕事や日常を忘れさせてくれ、明日への活力をもらえます。

また、会場で盛り上がった際にいつの間にか隣の人と抱き合っただけで喜んでた・・・など新しく友達が出来たりということもしばしば。

祝 九州学院創立100周年

主イエスの国は 永久に栄えん

熊本のハンバーグレストラン

Center River
センターリバー SINCE 1980

代表取締役 中川 晶雄 (S21)

熊本市世安町73-1 TEL 096(372)2227

九學東京若手の会

KG会

URL : <http://www.kg-kai.jp/>

九學東京若手の会 KG会 代表 島本 誠(S30) 事務局 高森(S32)/岡本(S34)

〒168-0062 東京都杉並区方南1-8-17 株式会社オカモト印刷内
TEL: 090-5792-0100 E-mail: s32takamori@kg-kai.jp

メール用QRコード
連絡はこちらから





KG会にて 世界チャンピオン内山選手と

時にはビールを飲みながらリラックスした状態で応援をするのもストレス発散になります。テレビで観るのもいいですが、スポーツ観戦は会場の一体感が味わえるのが醍醐味なので、是非会場まで足を運んで観戦されるのがお勧めです。

今後も九学の活躍が期待されます。母校の応援が出来ることはとても有難い事だと感じています。皆様も是非会場へ足を運んで、会場の雰囲気味わいながら母校の応援をされては如何でしょうか。

趣味の話・帰省

矢野 拓慎 (S55 回卒)

皆様、はじめまして。上京してきた若手の紹介の場として、東九通信の貴重なスペースをお借りさせて頂くことになりました、S55 回卒の矢野拓慎と申します。



帰省先 高千穂にて

早いもので、私が卒業したのが2003年ですので、それから8年の月日が過ぎた事になります。当時を振り返ると九州学院で学んだことが今の私のベースとなっているのだと感じております。中学、高校と6年間在籍しておりました。その中の数年間は敬愛寮で生活し、寝て

も覚めても常に先輩方がおられる状態で気が休まることもなく、学内では先生からお叱りを受け坊主にさせられたり、当時は辟易としておりましたが、今では礼節の大切さを学ばせて頂いたことに感謝しております。それと合わせて人の懐に入り込む度胸というのも学ぶことができました。(これは今の仕事でも役立っています。)

卒業してから関西の大学に進学し、就職で上京し4年が経ちました。現在は、プラスチックフィルムメーカーの営業として、関東・東海エリアを駆け回り、営業活動の傍ら旨い物探しをしております。今回趣味の話を書かせて頂くことになりました。私の趣味は音楽や旨い物探しですが、ただの羅列になりそうなので、これを趣味と呼べるかはわかりませんが、帰省について述べさせていただきます。帰省のペースは年に2～3回程で、今生活している中で一番の楽しみです。



私の実家は宮崎県の高千穂というところで、熊本市内からは車で2時間ほどの距離に在しています。観光地として高千穂峡や天岩戸を有しており、皆さんも天孫降臨の地としてご存知かと思えます。最近では、パワースポットとしても注目をされています。最近新たに観光スポットとして加わったのが、写真にてご確認頂ける通り、奥から神都高千穂大橋、高千穂大橋、神橋(しんばし)の3つの橋が一つの溪谷に掛かっているのを一望できるところと、高千穂峡のライトアップです。3つの橋に関しては、橋を架ける技術が稚拙だった頃、できるだけ橋の長さを短くしたいために溪谷の下の方に架けることになり、

Congratulating Kyushu Gakuin Centennial

父なる神よ み名によりて



ヴェローナ TEL:090-7736-9761
〒104-0061 東京都中央区銀座8-5-22 805銀座ビル3F
本郷 久 (S32)

あかあかおとろし (手造りの美味)
63 おかげ様で63周年いつも笑顔で変わらぬおいしさをお届けします。

2011年3月5日(日)
桜の馬場
城彩苑内に
オープン



12ヶ月オープン (熊本駅前店11)
フレスタ熊本西館
(株) 岩田コーポレーション TEL: 098-245-5211 (熊本) 代表取締役 岩田英志 (S24)
FAX: 098-245-5216

橋梁技術の進歩とともに溪谷の上に大きな橋が架けられるようになり、この様な風景が出来上がったという話があります。

この他にも素晴らしい景色が眺められるスポットがたくさんあります。先述した学生時代の話の、時が過ぎることによって感謝の念が生まれることと同じように、この高千穂の風景も、仕事で上京し遠く離れたことで、その素晴らしさを再認識することができました。帰省の楽しみに関しましては、この様な地元の風景の美しさを観賞することと、帰るところがある事に対しての安堵感を求めている感情だと思えます。ここ最近ですが、こういった地元や母校への思慕の念が徐々に強くなってきています。趣味の話から逸れてしまっていますが、母校への思慕ということで、ここ数年は九学東京若手の会(以下 KG 会)で微力ではありますが少しばかり手伝いをさせてもらっています。参加されている先輩方は様々な年代の方がおられ、アットホームな雰囲気の中で談笑させて頂いたり、時には背筋が正される様なアドバイスを頂戴することもあります。地元に戻らずとも、そこにはあたかも帰郷した時のような安堵感がありました。KG 会が私の中である種の心の拠り所の様なものになっています。これから上京される九学 OB・OG の方々にとっても KG 会がその様な場所であって欲しいと思っておりますので、微々たるものですが、これからも色々とお手伝いができればと思います。

以上、趣味の話とは話がずれたり読みにくい箇所が多々あったかとは思いますが、お読み下さり有難うございました。

九州学院同窓会神奈川支部の歩み

支部長 S12 齊藤征一郎

平成 9 年 11 月に神奈川県在住有志の浮田剛 (S8) 播田精二 (S8), 草本勝 (S9), 小崎幸次郎 (S9), 吉武勝支 (S9), 齊藤征一郎 (S12), 島田正弘 (S13), 荒木傑 (S14), 村上智信 (S14), 伊藤秀一 (S20), 内空閑裕明 (S20) が 同窓生と結集しまして、第六代院長西一郎先生のご指導のもと、翌年の平成 10 年 4 月 12 日に横浜マリンタワーのもとに 42 名が集まり、



齊藤支部長

第 1 回の同窓会を開催しました。校旗も用意し、文字通りの旗揚げを行いましたことを、昨日のように思い出します。

今年で結成 14 年になります。月日のたつのが早いですね。ご尽力を賜り、神奈川支部を応援して頂

いた先輩方に心から御礼申し上げます。関東にも毎年同窓生が上京し就職しています。

KG 会と言う頼もしい若人の組織も作られ益々九学卒業生は社会に役に立つ善人として多方面で活躍をすることでしょう。

神奈川支部ブログを発信して同窓生の紹介及び活躍を報告したいと思います。

今年の同窓会は 10 月 22 日(土)ホテル横浜ガーデン(横浜スタジアム前)で開催予定です。神奈川県在住の皆様参加をお待ちしています。

漱石の熊本とロンドン

S6 尾上 賢

私は、会社勤めのころは往々に仕事で、去年、今年は休みの家を訪ねてロンドンに行きました。彼の地では雨でない日、テムズ河畔のベンチに座ってロンドン塔を前に、漱石「倫敦塔」文庫本の頁を捲って、その文章と今の実物を見比べるといい気分です。

文学の素養は素よりなく、漱石の研究をしているわけではありませんが、本号前出の上村希文先輩から今年の春 頂戴した日本ルーテル教会 教会歴史資料編纂委員会ニュース 歴史は語る 特集「九州学院の院長」の中の 青田勇「Lutheran Church Visitor に紹介された遠山参良」に遠山先生の九州学院礼拝堂献堂式での「献堂の辞」のお言葉の中で：先生がブラウン先生をお知りになったのは、当時長崎においでになった先生(遠山)が、“時の五高の英語科主任夏目漱石氏から五高に来ないか”と交渉を受けられ、熊本に来る途中佐賀から乗車した一人の外国紳士がブラウン先生だったから・・・と仰ったということを知り、漱石に繋がる縁を感じたのです。

祝 九州学院創立100周年

世界の民を ひとつとなし



建設業許可 神奈川県知事許可(般16)第50909号

株式会社 **タイセイビルド**

代表取締役 **齊藤 征一郎 (S12)**

～ 神奈川支部長 ～

土木・建築・リフォーム・店舗・設計施工・建物総合保守管理
冷暖房・冷蔵庫・厨房設備・設計施工・メンテナンス

〒233-0016 横浜市港南区下永谷5丁目71番12号
電話 **045-823-8644**(代) FAX 045-826-2197



多摩八十八ヶ所第一番札所

真言宗豊山派

安養寺

住職 島本誠永 (S30)

〒180-0002

東京都武蔵野市吉祥寺東町1-1-21

漱石は、明治29年から同33年(1900年)英国留学を命じられるまで熊本に住んで五高英語教授を勤め、後任を遠山先生に託しています。ブラウン先生も翌年五高英語講師となられて遠山先生と職場を共にして祈りを共にし、1911年九州学院の創立に至ります。



熊本 漱石6軒目の家

藤崎宮の参道を向かって左に入った北千反畑5丁目に熊本における漱石6軒目の家(今、漱石記念館になっている坪井の家は同5軒目)があり、「漱石が熊本で過ごした最後の住居で明治三十三年四月から熊本を去る三十四年七月までの三ヶ月住んだ後上京し、同年九月には英国留学へと旅立ちました・・・」と書いた木の柱が立っています。単身留学した漱石は、ロンドンでも2年半の間に5軒の下宿に住み、ロンドン塔へ行ったのは「着後間もないころであった」と「倫敦塔」に書いていますから Regent Park と Euston 駅に程近い Gower St. にある1番目の下宿からだったのでしょう。ここからロンドン塔までは、5kmはあります。「恐々ながら一枚の地図を案内として毎日見物のためもしくは用途(ようたし)のため出あるかねばならなかった。無論汽車へは乗らない、馬車へも乗れない、減多な交通機関を利用しようとする、どこへ連れて行かれるか分からない。この広い倫敦を蜘蛛手十字に往来する汽車も馬車も電気鉄道も鋼条鉄道も余には何らの便宜をも与えることが出来なかった。」と書いていますから、後に書いてあるように人に聞きながら歩いて行ったんでしょう。(110年後の私も地下鉄には乗りますが、地図を片手に人に聞きまくって、バス、汽車には乗らず歩くのは同じ)この頃、ロンドンの地下鉄、この辺を走る(今の Central line は何と蒸気機関車が牽いていたそうです。(熊本市電の開業は大正6年1917年ですから当然漱石は熊本の市電は知りません)倫敦塔と同じ文庫本に入っているカーライル博物館(カーライルの家:24

Cheyne Row, Chelsea)に「カーライルはまたいう倫敦の方(かた)を見れば眼に入るものはウエストミンスター・アベールとセント・ポールズの高塔の頂きのみ、その他幻の如き殿宇は煤を含む雲の影の去るに任せて隠見す」とあります。今 両寺院の高塔はここから見えませんが、煤けた光景は150年前カーライルがいうのとあまり変わりません。今、漱石5番目の下宿 81 Chase, Clapham)の道を挟んで真正面のアパートの部屋が、崇城大学教授図書館長 恒松邦生先生が開かれた倫敦漱石記念館(Soseki Museum in London)になっていて、当時の漱石の様子を偲ぶことが出来ます。



倫敦 漱石5番目の下宿

短編「霧」の中に、「昨宵は夜中枕の上で、ぱちぱち云う響を聞いた。これは近所にクラハム・ジャンクションと云う大停車場(おおステーション)のあるお蔭である。このジャンクションには一日のうちに、汽車が千いくつか集まって来る。それを細かに割りつけて見ると、一分に一と汽車ぐらいつつ出入をする訳になる。」と書いています。まるで今の新宿駅みたいですが、今の Clapham Junction 駅はこれ程ではないようです。熊本の風景は空襲と水害、更なる都市化で、九学創立の頃とは、すっかり変わってしまっているのですが、ロンドンは大空襲を経験しても、100年前と基本的には変わっていないように思われます。

編集後記:先生方、先輩方、そして若い世代の皆さんのご協力を頂き、創立100周年秋号と銘うった号を出すことが出来ました。厚く御礼申し上げます。編集担当は竹熊 誠が暫く熊本住まいのため、同地特派員となり、新たに、本郷 久が(主として広告担当)として加わりました。第9号も充実した紙面とするよう努めますので宜しくお願い致します。

S6 尾上賢、S15 竹熊誠、S30 高木宏一、S32 本郷久

祝 九州学院創立100周年

地をばあまねく み国とする みちかいをとく はたしたまえ

翻訳

竹熊 誠 (S15)

TAKEKUMA, Makoto

〒860-0845 熊本市上通町4-10 とらやビル 402号

TEL・FAX (096) 354-9575

E-mail: mtakekuma@ss.em-net.ne.jp



We wish OOptions!

株式会社 オカモト印刷

岡本 明(S34)

〒168-0062 東京都杉並区方南1-8-17 Tel 03-5300-0722 Fax 03-5300-0723
web www.oka-p.co.jp